

## 生命を育む農業の推進と湿地生態系の再生のための韓日共同宣言

慶尚南道昌寧郡 2012年4月29日

農業は人類の生存と繁栄のために必要な人間活動の一つです。しかし、近年、過度な肥料や農薬の使用により、農地は荒廃し、生態系のバランスが崩れています。

2005年、ウガンダで開催されたラムサール条約第9回締約国会議(COP9)を機に、韓国と日本の民間団体で湿地としての水田の生態系に対する重要性を訴えてきました。2008年昌原市で開催された締約国会議(COP10)では、決議文x-31“湿地生態系としての水田の生物多様性向上(Enhancing biodiversity in rice paddies as wetland systems)の採択に大きく寄与してきました。2012年7月にルーマニアのブカレストで開かれる第11回締約国会議(COP11)に提出される湿地生態系としての水田の保存と農薬の過度な使用の規制に関する決議文の素案作成においても昌原市にある東アジアラムサール地域センター(Ramsar Regional Center-East Asia)と密接に連携して、韓国と日本の専門家が官民一体となって意見を集約してきました。

2012年4月27日から5月1日まで日本の佐渡市、豊岡市、大崎市、慶尚南道の固城郡、昌寧郡、昌原市の行政、国内外の水田関連の民間専門家たちは、生命を育む農業の現場と水田の生物多様性向上のための再生現場を視察し、両国の専門家や自治体との意見交換を通じて、次のような宣言を行うに至りました。

1. 韓国と日本の生命を育む農業の中心地として、慶尚南道 固城郡、昌寧郡、昌原市、日本の佐渡市、豊岡市、大崎市は、慶尚南道ラムサール環境財団と協力して、今後5年間、生命を育む農業の推進と湿地生態系再生のためのネットワーク会議を設立し、政策・実務交流会を開催する。
2. 今回のシンポジウムに参加した両国の民間専門家や自治体は、実務担当者を置き、両国のネットワーク会議の窓口とし、次のことを調整する。
  - 生物多様性の保全と地域経済活性化のための自治体合意下での民間交流の活性化
  - 定期的な実務交流と韓日の関連情報交換
  - 様々な生命を育む農業と湿地生態系保全拡大のための研究活動を含んだ多様な交流の検討
3. 今回のシンポジウムに参加した両国の自治体は、東北アジア生命農業と湿地保全の中心自治体として、東北アジアの水田保全と生物多様性保全のために定期的に水田関連活動を行っている官民のネットワークを広げ、生命農業と湿地保全の取り組みを拡大する。
4. 慶尚南道ラムサール環境財団は、このネットワーク会議の活動を定期的に整理し、ネットワーク会議の同意を得て、国際的な広報資料を作成して、関連機関に配布する。